

知の刺激による感動こそが学びの楽しさ 小中高一貫指導体制の長期的視野で 「学ぶことは素敵なこと」だと伝えたい

国立大学や難関私立大学入試で
昨春、過去最高の合格実績を更新

誉田進学塾グループは昨春の大学
入試で合格実績を飛躍的に伸ばしま

した。塾生たちの多くが受験する主な
難関大学において、過去最高実績を更
新したのである。国立大では

東大・東北大・北大・一橋大・

東京科学大・千葉大、そし

て難関私大では早慶上理 G
MARCH のすべてで過去

最高を記録しました。

実は、一昨年も難関私立
大学の多くで過去最高実績
を大幅に更新しましたが、
難関国立大学の実績があ
と一歩伸びず、大学受験部
スタッフたちにとって納得
のいかない結果でした。そ
の悔しさを糧に、東進コン

誉田進学塾グループ
(株式会社 ジャスメック)

千葉県千葉市

清水 貫

代表取締役

誉田進学塾グループ
誉田進学塾
誉田進学塾 ism
誉田進学塾 sirius

誉田進学塾 premium
／東進衛星予備校
東進中学 NET



追い込んでしまおうでしょう。試練を与
えて鍛え、努力する体験も大切ですが、
それは勉強の本質でしょうか。勉強は
単なる難行苦行ではありません。子ど
もたちに伝えるべきものは、勉強の本

質的な魅力です。生きるために直接必
要ないことにエネルギーを注ぎ込むの
は人間しかやらない行為です。それが
「知」の本来の姿なのかもしれないと
個人的には思います。

勉強の本質的な魅力を伝えることを
経営品質として社員研修によって高める

勉強の本質的な魅力を伝えること
を経営品質として高めるために、これ
まで以上に社員の研修に力を注ぎま
す。私は社員に対して常々「塾の先生
ほど勉強しない人たちはいない」と持
論を展開します。

ずいぶん前に、メディアにも出演さ

れるある脳科学の権威とお話した際、
他人から見えてどんなに難しいことだ
も、その人にとって既にできることな
ら脳は活性化せず成長しないと知りま
した。つまり、これまでできなかった
ことをできるようにしようと挑戦して
いるときだけ、脳は活性化して成長す

テンツを活かして合格に結び付けてい
くための研究開発を進め、昨春の大
躍進となりました。

もともと塾生数の規模を誇るよう
な学習塾ではないため、総数は目立つ
ほどではないかもしれませんが、塾生
数に対する合格者数や進学率の比率
を鑑みて、卒業生たちの努力の成果を
誇らしく思います。

学習塾や予備校は、生徒一人ひとり
を成長させた結果としての「合格力」
にこだわらなければなりません。さら
に、目の前の中学・高校受験の結果を
追い求めるだけではなく、大学受験ま
で長期的な視野で育てていくことが、
小中高一貫教育の学習塾として大切だ
と考えます。しかしながら、目指すゴー
ルは合格という結果だけではないはず
です。生徒たちは受験がゴールではな
く、人生のもっと先まで学び続けてい
くことになるからです。

るのです。自ら脳に負荷をかけること
によって、脳が適応して負荷がかから
ないように成長することが、習熟の正
体なのです。

現場で活躍していらつしやる学習塾
の経営者や先生方は、脳にとって何か
新しいことを挑戦し続けていますか？
前年から進歩発展していないままに
なっているいませんか？ 学習塾の先生は
難しい入試問題を解説しているように
見えますが、それは昨年も一昨年も同
じようにやっていたことや前からでき
たことではないでしょうか。

日々新しいことに挑戦しない繰り返
しの多い仕事は脳への刺激が少なく、

勉強からしか得られない学びの楽しさと
合格力を並立する困難な道を歩む覚悟

これからは私たちは、勉強からし
か得られない「学びの楽しさ」を大切
にしていきたい。長期的視野の小中
高一貫指導体制で、小・中学生の早い
時期から時間をかけて知識の本質的
な理解に基づく思考力や判断力を伸
ばすことによって知的好奇心を引き
出し、学ぶ楽しさを育てます。同時に
受験における「合格力」にこだわり、
時代に適しながら結果を出すとい
う両極端を並立する困難な道に立ち
向かいます。

昨年このインタビューでもお伝え

した通り、誉田進学塾グループは「学
びの楽しさ」を大切にする姿勢を貫い
てきました。未知なるものに出会った
ときのときめき、深く考えてわかった
瞬間の快感、試行錯誤した末に閃いた
興奮は、他のものからは得ることがで
きません。「知」の刺激から生まれる
感動こそが「学びの楽しさ」の本質です。
そしてさらなる未知を求める原動力を
生み、自ら思考し、自ら求め負荷をか
けて挑戦する経験が続けることで「解
決力」を鍛え伸ばすと信じています。

どんなに時代が変化しても、未来
を生きていく子どもたちにとって、
正解のわからないものに立ち向かう
「解決力」が重要であることは変わら
ないはずだ。

受験や成績を目的化したいいわゆる受
験教育では、知識の詰め込みや安直な
対策を強いて、勉強は我慢するものと

いわゆる「ボケやすい仕事」だと言わ
れています。実は、専門性の高い、士
(師)業の多くが当ではまりそうです。
毎年、同じテキストを同じように教え
ているだけなら、学習塾の先生も同じ
かもしれません。パターン化した学習
を否定する難関校の入試問題と日々闘
い、精力的にチャレンジしている先生
は少数派ではないでしょうか。

だからこそ、私は社員たちが自ら進
んで成長に挑戦できるように育成の仕
組みに重点をおいて、日々自己への挑
戦として活躍できる場を創り、一人ひ
とりの長所を活かせるように責任と権
限を与えていこうと考えています。

民間教育の素晴らしさは多様性に
あります。さまざまな考えを持つ学習
塾の中から、生徒や保護者が求める最
高の教育を選ぶことができるように、
各学習塾が理想を掲げて邁進するこ
とが求められています。

教育業界で競い合う皆さまと切磋
琢磨しながら、微力ながらも私たちの
理想に挑戦し、感謝の気持ち忘れ
ず常に明るく前向きに、社員たちと
ともに夢と希望を心に抱いて頑張っ
てまいります。